

会 議 要 旨

会議の名称	川越市立川越高等学校教育審議会 第2回審議会
開催日時	令和5年7月12日(水) 午後3時00分 開会 ・ 午後4時30分 閉会
開催場所	川越市立川越高等学校大会議室
議長(委員長・会長)氏名	青木 勇藤
出席者(委員)氏名(人数)	蘆田 章吾、大野 好司、小川 修一郎、木村 昌幸、田中 晃、 永島 慎太郎、中村 美穂、長谷部 辰夫、三原 孝志、 村上 重仁、若林 圭(代理 柳 まみ) (11人)
欠席者(委員)氏名(人数)	深野 友也 (1人)
関係者職氏名	川越市教育委員会教育長 新保 正俊 学校教育部長 岡島 一恵 市立川越高等学校 校長 飯田 敦 事務長 松本 秀規
事務局職員職氏名	学校教育部副部長 兼 学校管理課長 西貝 俊哉 学校管理課 副参事 川鍋 寛 副主幹 山中 充 指導主事 宮本 幸二郎
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会のことば <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育長挨拶 (2) 委員紹介 (3) 事務職員等紹介 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和4年度会議の概要報告 (2) 学校運営の方針についての課題の整理 (3) 今後の教育審議会を取り上げたい議題 3 諸連絡 4 閉式のことば

配布資料	川越市立川越高等学校教育審議会 次第 資料 1 川越市立川越高等学校教育審議会委員名簿 資料 2 川越市立川越高等学校教育審議会条例 資料 3 川越市附属機関等の会議の公開に関する実施基準 資料 4 令和4年度 第1回 審議会会議要旨 資料 5 学校運営の方針についての課題の整理 令和6年度入学生用学校案内 令和5年度学校要覧
------	---

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
司会	1 (1) 新保教育長より挨拶
教育長	教育長あいさつ (別紙)
司会	(2) 委員紹介
司会	(3) 事務職員等紹介
司会	2 議事進行を青木会長に依頼する。
会長	会議の公開について (傍聴者なし)
会長	資料2「川越市立川越高等学校教育審議会条例」第5条第4項の規定に基づく関係者の市立川越高等学校管理職出席について、諮る。
委員	「異議なし」
会長	議事(1) 令和4年度会議の概要報告について、事務局から報告。
事務局	資料4「令和4年度会議要旨」について (説明)
会長	意見や質問等はあるか。 この内容で承認することでよいか。承認されると、この内容で市のホームページで公開される。
委員	(意見等なし)
会長	異議がないようなので、報告のとおり、会議要旨とする。 議事(2) について、本審議会では市立川越高校が、平成27年度の答申を受けて行ってきたこれまでの取組について説明をすることで、今後の学校運営の方針に向けた課題の整理をしたいと考える。 議事(2)「学校運営の方針についての課題の整理」について、事務局から説明を願う。

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>資料5「学校運営の方針についての課題の整理について」 平成28年3月川越市立川越高等学校の長期的ビジョンについて(答申)に、次のような4つの視点がある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 市民の期待 (市内唯一の市立高校に対する市民の期待に応える) 2 商業経営後継者の育成 (大正15年の創立の原点をどのように生かしていくか) 3 時代の要請 (これからの時代で活躍するために必要な資質・能力の育成) 4 学校文化の継承・発展 (授業・学校行事・部活動) を大切にする学校文化の継承・発展 </div> <p>こうした視点から長期的ビジョンの理念について、次のとおり3つの理念を答申している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> (1) 心身ともに健全にして進取の気性に富む個性を伸ばすとともに協調的精神を養い、職業を通じて社会に貢献しようとする志をはぐくむことのできる学校 (2) グローバル化に対応したコミュニケーション力を身に付け、川越や日本のことをきちんと伝えることのできる国際人となることのできる学校 (3) 本市唯一の市立高校として、異校種や家庭・地域との連携を図りながら、時代の要請と市民の期待に応える魅力ある学校づくりを進めることのできる学校 </div> <p>また、それぞれの理念を具現化したときの留意点、課題を①～⑦に整理した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> ① アクティブ・ラーニング導入による主体的な学び ② 普通科における大学等の一般入試に対応するための入学者選抜や教育課程 ③ 英語検定等資格の取得やTOEICなどのスコアの活用を含めた英語力の向上 ④ ICT など情報分野に係るリテラシーを高める方策 ⑤ 市内企業、大学等と連携した教育活動の推進 ⑥ 普通科の増員と情報処理科、国際経済科の減員など生徒定員の検討 ⑦ 社会的要請を踏まえたカリキュラムの在り方など、商業教育の充実 </div>

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
会長	これまでの高校の取組については一つずつ、事務局から説明を願う。
事務局	資料5 (1) ①アクティブ・ラーニングの導入による主体的な学びについて、説明する。「総合的な探究の時間」では、学校全体で取り組む課題とともに学年独自の課題も設定し、一年を通してキャリア教育に取り組んでいる。講義形式の授業ではなく、グループディスカッション、ディベート、グループワークなどである。探究課題については、学年独自の課題や全校で共通の課題を学年に応じて配置し、探究のプロセスを通して、生徒が解決策を見つけることが目標である。
会長	市立川越高校から補足等あるか。
校長	<p>県から来た職員もたくさんいるので、知識構成型ジグソー法を用いた協調学習などを行っている。1年生は一人一台端末としてiPadを導入した。ICT端末を活用したディスカッションやディベート、グループワークを行っている。生徒は端末をノート代わりにし、教員はプリントをデータ配付している。</p> <p>「総合的な探究の時間」では、ポケットティッシュのデザインに川越の写真を載せることで、川越の観光についての広報活動を行った。市長や教育長にも紹介し、好評を得た。</p>
会長	意見や質問はあるか。
三原委員	アクティブ・ラーニングは、「総合的な探究の時間」以外でも行っているのか。
校長	多くの授業で行っている。
大野委員	商業学科にある課題研究という授業での現状を教えてください。
校長	情報処理科、国際経済科3年生の授業で、商業科目で身に着けた知識・技能などを基にビジネスに関する課題を発見し、解決策を探究している。
大野委員	「総合的な探究の時間」と課題研究の両輪で進めることにより、学習が深まっていくので、これからも期待している。

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
長谷部委員	「総合的な探究の時間」で、学年ごとに行っていることについて教えてほしい。
校長	1年生では、中学校と高校との学習の違いの考察 2年生では、修学旅行の調べ学習 3年生では、進路についての分析などがあげられる。
大野委員	「総合的な探究の時間」は、カリキュラムマネジメントにより、各教科間、地域との連携を推進し、学校活性化の起爆剤となる可能性がある。この点で、「探究課題」をもっと具体的に「地域」を起点にしてはどうか。
会長	近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになっており、アクティブ・ラーニングの重要性が叫ばれている。今回は、特に「総合的な探求の時間」での実践例を紹介してもらった。 次に移り、(1) ② 普通科における大学等の一般入試に対応するための入学者選抜や教育課程について、事務局より説明を願う。
事務局	入学者選抜について全県的には、40人学級が主流であるが、全学科、全学年で少人数学級編制（35人学級）を実施している。また、特色ある入試として「地域特別選抜」を実施している。 教育課程について、普通科、情報処理科、国際経済科と3つの学科があり、それぞれ進路に合わせた科目選択、様々な資格の取得など特色あるカリキュラムを設定している。 普通科では、1、2年次で、全科目バランスよく選択し、3年次では、5つの選択科目があり、進路に応じて選択できるようになっている。 情報処理科・国際経済科では、商業科目を多く選択することで、資格取得を目指し、全商検定3種目以上1級合格者55名と県内トップクラスの成績を維持している。
校長	本校の課題などについて話し合うため、プロジェクト委員会を立ち上げた。メンバーは7名。前回の会議では、入試改革について議論した。他県の市立高校では、独自の入試を行っているので、現在研究をしているところである。今後は、地域特別選抜を活用して、地元川越から優秀な生徒を確保し、進学の実績を残していきたい。また、特色のある部活動があるので、そこで活躍を希望する生徒を確保することが課題である。

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
会長	意見や質問はあるか。
三原委員	受験する中学生が、普通科と商業科のカリキュラムの違いをどの程度理解をしているのか。
校長	学校説明会で、本校生徒会の生徒からも各学科の違いを説明しているが、詳しくわかっていない生徒も多いと思う。
三原委員	商業科に入り、進学したい生徒もいるのではないか。
小川委員	情報処理科の生徒の中には、資格と進学の両方の勉強が必要になり、苦勞しているという話を聞いた。また、普通科でなくても進学しやすい形にしてほしい。
校長	指摘のとおりである。情報処理科、国際経済科ともに資格取得や就職に向けて有利になっているが、進学希望の生徒には選択科目等のカリキュラムが課題である。
田中委員	市立川越高校を進学希望する市内の中学生は、非常に多い。中学校では夏休みから、面談を行い、高校説明会に行く。普通科に行きたいが、どうしても市立高校に入りたいため、情報処理科や国際経済科に流れていく生徒も多い。そのため、入学してからギャップが生まれてしまうことも起きている。そうならないために、より説明会を充実したものにするとよいかもわからない。
副会長	私は本校（商業科）を卒業した。在学中、大学進学するという自覚をもち、学習した。当時は進学クラスがあり、商業科の教科より、普通科に近い勉強ができた。
校長	商業科でも進学できないわけではない。大学の指定校推薦もある。実際に大学へ進学している生徒もいる。一方で、一般受験になると、本人が自覚をもって勉強を進めていかないといけないという厳しい現状もある。
大野委員	現行の市立川越高校の教育課程は、国公立大学受験をあまり想定して

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	<p>いないのではと想像するが、生徒の入学時の偏差値を考慮すれば、私立難関大学を見据え、受験科目数を絞らせるのが効率的である。そう考えると、実業系科目のある高校の進学実績としては、よく健闘しているものと思う。</p>
会長	<p>この件については、また次回の教育審議会でも扱っていきたい。 次に (2) ③ 英語検定等資格の取得や TOEIC などのスコアの活用を含めた英語力の向上について、事務局より説明を願う。</p>
事務局	<p>英語力の向上について、新教育課程では英語科目に「英語コミュニケーション」などの 7 つの授業を設定している。授業では、協働的な学びを取り入れ、生徒同士のディスカッションや英語劇を実施し、生徒が興味・関心を持つような授業を心掛けている。</p> <p>普通科は 1～3 年まで 17～19 単位の英語の授業があり、英語の時間を十分に確保している。情報処理科・国際経済科は英語より商業の科目を多く選択させている。</p> <p>検定について、生徒は自主的に英語検定を受験する傾向がある。合格すれば、高校卒業レベルの 4 技能（リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング）すべてをバランスよく身につけていることの証明となる。また、大学によっては、英検 2 級取得者に対して推薦入試などで一定の点数を加算する優遇措置を取っている。令和 4 年度、実用英語技能検定 2 級合格者は 22 名であり、積極的に資格取得を目指している結果である。</p>
校長	<p>英語の教員には、オールイングリッシュで授業する者がいる。授業では英語劇などを取り入れ、アクティブ・ラーニングを行っている。英検 2 級の合格者が 22 名いることも納得ができる。ALT も優秀であり、英語部も活発に活動している。今年度から交換留学も復活して、8 名の生徒がノースセーラム高校（アメリカ）へ短期留学に行く。</p>
会長	<p>意見や質問はあるか。</p>
大野委員	<p>実用英語実能検定 2 級の合格者数が 3 年生の約 1 割近くという実績は、英語科の先生方のご指導の賜物であり、生徒の皆さんがよく努力した結果である。</p>

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
会長	英語教育は今も昔も重要な課題である。今後も英語教育向上について、様々な取組を考えてほしい。
事務局	承知した。
会長	次に移り、(2) ④ ICT など情報分野に係るリテラシーを高める方策について、事務局より説明を願う。
事務局	ICT などの方策について、国の GIGA スクール構想により一人一台タブレット端末の活用として、令和 5 年度から年次進行で iPad を導入している。現在、多くの授業で iPad を用いた授業が展開されおり、教え合い・学び合う「協働的な学び」の実現が目標である。使用機種については、iPad・Wi-Fi モデル。学校には Wi-Fi 環境が整っており、学校内での通信料は学校が負担。課題の管理・作成・提出機能が利用できるノートアプリを導入している。端末が故障した際には、補償される仕様になっている。
校長	1 年生は ICT 端末を有効活用している。例えば、体育の授業（体操）で、クラスメイトと動画を撮り合い、技の完成度を高めている。ただし、授業では、ノートを自分で取らず、クラスメイトから板書のデータをもらう場面があるため、漢字を書く力が低下するのではないかと心配している。
会長	何か意見や質問はあるか。
大野委員	さらなる成果を目指すには、ICT 活用が有効であると思う。例えば、英語アプリを 1 年次から、タブレットの導入と併せて活用することにより、有効に活用させることができるのではないか。レベル別に生徒のグループを編成し、相互に励まし合いながら取り組ませることにより、人間関係づくりも深められると思う。
会長	ICT の有効活用は、これからの教育では必須である。生徒が個別学習、協働学習などの場面で、ICT を活用できるようにしてほしい。
事務局	承知した。

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
会長	次に移り、(3) ⑤ 市内企業、大学等と連携した教育活動の推進について、事務局より説明を願う。
事務局	<p>異校種と連携した教育活動について、小学生対象学校見学会、中高連携事業として中学生への進路相談など実施している。発達の段階に応じた継続的かつ体系的なキャリア教育の充実を図るためには、学校種間の円滑な連携・接続を図ることが重要である。高校生にとっては、自覚や責任感、学ぶ意欲等の高まりにつながっている。</p> <p>「小学生対象学校見学・体験会」については、体操、パソコン、英会話、理科実験などを体験している。市内小学生が高校生と触れ合い、市立川越高校の良さを知り、興味を持つことで、将来の生徒募集につながっている。</p> <p>中高連携事業については、市内中学生と高校生をオンラインでつなぎ、中学生のときの進路選択や高校生活についてインタビューする機会を設けている。中学生が高校生活の体験を聞くことで、中学校の進路指導・キャリア教育につながっている。</p>
校長	<p>コロナの関係で、市内の企業との連携が止まってしまった。どのように進めていけば良いのか、検討中である。</p> <p>小中学校の連携は、昨年度とても喜ばれたので、今年度も進めていく。先日市内のある中学校の2年生全員が来校し、本校の生徒会本部の生徒が中心となって、交流を深めることができた。また、オンラインでの交流も進めていく予定である。</p>
会長	市内の企業で意見があれば、お願いしたい。
長谷部委員	川越の企業は、ほとんどが商業であり、2代目、3代目のような企業がたくさんある。卒業生もたくさんいるので、うまく連携ができるのではないか。
柳委員	弊社（銀行）では、出張授業で経済について講義をしているので、興味があれば、ぜひ活用してほしい。
大野委員	民間企業の方をゲスト・ティーチャーとして来校してもらい、企業と連携した授業を実施することもできるのではないか。特に、同窓会の力をお借りし、社会で活躍される卒業生に御指導いただくことは、在校生

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	にとって、一つの未来像を示すことにもなり、有効なキャリア教育にもなり得ると考える。
会長	市内の企業との連携は、将来、起業家を目指す生徒にとって、大きな経験になるので、検討してほしい。
事務局	承知した。
会長	次に移り、(3) ⑥ 普通科の定員増加と情報処理科・国際経済科の定員減少など生徒定員の検討について、事務局より説明を願う。
事務局	生徒定員の検討について、平成24年度入学生から35人学級×8クラスとなった。普通科は高い倍率を維持しているため、合格できずに不合格となる生徒も多数いる。普通科の定員を増やし、商業系学科を減らすかどうかは今後の課題である。 全県的には商業科の倍率は厳しい状況であるため、学科の再編も含め、再検討することが望ましい。
校長	令和5年度男子の割合は全体で26.1%である。近年の男子の割合は令和4年度24.2%、令和3年度23.2%、令和2年度24.7%であり、教育課程の編成及び学校行事等に影響があるため、男子の比率を上げていきたい。
大野委員	情報処理科・国際経済科については、少数精鋭の実践教育（進学重視型商業教育、即戦力企業人養成）を実施するため、各学科1クラスとするか、統合した学科を2クラスとするか、いずれの方法でも募集人員を70人（35+35=70人）とし、普通科の募集人員を140人から210人とすることは、中学生・保護者の普通科志向に対応して、生徒募集にも有効であると考えます。
会長	募集人員の変更や学科の再編は、大きな課題である。県の動向を注視し、市立川越高校の将来を見据えて対応をすべきである。
事務局	承知した。
会長	次に移り、(3) ⑦ 社会的要請を踏まえたカリキュラムの在り方など、

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>商業教育の充実について説明を願う。</p> <p>商業教育の充実について、新教育課程では商業科目に17の授業を設定し、多様な進路選択に対応している。情報処理科では、商業科目（情報処理・プログラミング・簿記など）の学習を深め、情報活用能力の育成を図っている。国際経済科では、商業科目（ビジネス基礎・簿記など）の学習を深めるほか、グローバル経済等の科目により、国際的なビジネスに関する能力を育成している。</p> <p>また、令和4年度卒業生の進学状況は、4年制大学、短大、専門学校を合わせて普通科129名、情報処理科29名、国際経済科54名、計212名である。就職状況は、普通科5名、情報処理科39名、国際経済科18名、計62名である。</p>
校長	<p>校内のプロジェクト委員会では、入試について議論をしている。普通科では高倍率を維持しているが、情報処理科と国際経済科は、昨年度は倍率が落ちてしまった。野球部の多くは、国際経済科に所属していることもあり、今後の入試のあり方について議論していきたい。</p> <p>商業教育が充実しているが、大学進学に向けて課題もある。新教育課程が始まり、どのような対応が求められるかについて、議論をしている。</p> <p>プロジェクト委員会では、単位制の学校になるのも良いのではないかという話が出た。山形市立商業高等学校では、商業科でありながら、単位制を導入している。興味深いので、視察し研究していきたい。</p>
会長	<p>質問や意見はあるか。</p>
大野委員	<p>商業系学科の再編整備は、社会的要請と考えられる。既に「国際」という看板そのものの古いイメージが拭えない。例えば、「グローバルビジネス科（仮称）」で2クラス募集し、3年次には、選択制で、英語力を生かし、世界を目指す「インターナショナルコース」と地域での実践（商品開発・販売等）を行う「ローカルコース」に分かれるという具合に、今とこれから、世界と地域を指向した商業教育への転換を図ることに期待したい。</p>
会長	<p>商業系学科は大変歴史があり、市立川越高校を支えてきた。今後の商業教育については、他県の取組などを参考により良いものにしてほしい。</p>

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	承知した。
会長	以上7つの取組について説明をしたわけだが、次に移り、議事(3)今後の教育審議会で取り上げたい議題について、事務局から説明を願う。
事務局	<p>今後の教育審議会で取り上げたい議題については、4点である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) 入試改革と生徒募集についてである。校長先生やプロジェクトチームの意見を踏まえて、今後の審議会で議論してほしい</p> <p>(2) 特色ある普通科の教育と商業を重視した実学教育の充実についても、審議会で同じように議論してもらいたい</p> <p>(3) 英語力の向上と情報活用能力の育成について</p> <p>(4) 部活動の活性化と市内企業、大学等と連携した取組について</p> </div> <p>(3)、(4)については、議論したい課題であるが、今後、審議会やプロジェクト委員会からの意見をもとに、論点を絞っていきたい。</p> <p>次回の審議会では、「(1)入試改革と生徒募集について」扱っていくとする。</p>
会長	最後に何か意見や質問はあるか。
蘆田委員	<p>現状として、中学生は夢や希望を持っていない生徒が増えている。ある程度進路の方向性が固まってしまう専門学科は、今の中学生の選択肢に入りづらくなっている。普通科に入って、いろいろな進路の可能性を残しておきたいという傾向がある。</p> <p>ある高校では、商業学科の良さを生かしていくために、中学校だけでなく、小学校へ訪問する取組もある。中長期的なビジョンを持つこともよいのではないか。</p>
会長	今後の議題については、事務局で精査し、次回の会議までにまとめていく。本日は、様々な角度から、多彩で示唆に富む発言に感謝する。予定の時刻となったので、本日の審議を終了とする。進行を事務局に返す。
司会	<p>委員には、審議への協力に感謝する。</p> <p>次回の会議は、令和6年1月17日(水)15時から16時半まで、市立川越高等学校での開催を予定している。</p> <p>以上をもって、川崎市立川越高等学校教育審議会令和5年度第2回会議を閉会とする。</p>